



山陰海岸ジオパーク

その6

浦富海岸を含む山陰海岸を 世界ジオパークに!!

日本ジオパーク委員会の 現地視察がおこなわれました

浦富海岸を含む山陰海岸の、世界ジオパークネットワーク加盟に向けての国内候補地を選定する日本ジオパーク委員会の現地視察が、9月10日(木)～11日(金)の2日間の日程でおこなわれました。

委員3人による現地視察は、10日(木)は京都府の琴引浜や兵庫県の玄武洞などがおこなわれ、浦富海岸の視察は11日(木)の午後、城原海岸でおこなわれました。

当日は、浦富海岸の地形・地質に詳しい鳥取地学会の依藤英徳氏が浦富海岸の説明をされた後、榎本岩美町長、いわみガイドクラブのメンバーを交えての視察がおこなわれました。



町の取り組みを説明する岩美町長

岩美町長が「町においては地元の方々がジオパークを理解しやすく、また、地元の方々がどれだけ現地を訪れてくれるかのフィールドづくりを大切に

していること、現在の取り組み状況」などを説明したあと、浦富海岸の変化に富んだ地形・地質をわかりやすくガイドしているいわみガイドクラブの活動状況などが紹介されました。

視察後、鳥取市内でおこなわれた委員の方々との意見交換会では、熱心に世界にむけて取り組みをしてきていると述べられたうえで、

1. 昨年候補地に選ばれなかった理由の1つでもあるテーマが、学術的に整理されてきたが、見る側からわかりやすいよう工夫・整理すること
2. 全体の拠点となる施設を設定して、その他はサテライト施設として連携をとって運営していくことが望ましいこと

等の講評をいただきました。

今年の世界への候補地は、山陰海岸、秩父、室戸の3地域。国内候補地の決定は、日本ジオパーク委員会において、10月～11月の委員会で決定される予定です。



委員の質問に答えるいわみガイドクラブ

ひが 輝る人

デフリンピックで
大健闘

せきもとしょうへい
堰本将平さん(太田)



写真中央が堰本さん 父、母、愛犬と共に

堰本将平さんが、台北(台湾)で開催された第21回夏季デフリンピック(9月5日～9月15日開催)陸上競技の部100Mと4×100Mリレーに日本代表として出場し、100Mでは準決



スタートはランポイントが合図 第8コースが堰本さん

勝出場、4×100Mリレーでは第6位入賞と大健闘しました。

生まれつき耳が聞こえにくいという障害があり、鳥取聾学校に通っている堰本さん。小学校1年生の時、学習の一環として交流していた旧本庄小学校の谷口先生(現岩美南小学校教頭先生)に誘われて50Mに出場したことが、陸上を始める大きなきっかけとなりました。その後、100Mにおいて中学校1年生で県1位、中学校3年生で全国大会出場等めきめきと成長し、今年高校2年生で世界という大舞台に立ちました。

4年後ギリシャのアテネで開催されるデフリンピックに限らず、様々な国際大会を目指して走り続けていきたいという堰本さん。音のない静けさの中で戦いに挑むのは、容易なことではないはず。そんな中でも、ひたすら突き進んでいく姿に、私達は勇気と感動を与えられます。成長し続ける堰本さんの今後の活躍が楽しみです。

デフリンピックとは・・・

4年に1度、世界規模で行われる聴覚障害者のための国際総合競技大会。
夏季と冬季がある。